

周作クラブ会報

(第68号)
2017年8月30日発行

周作クラブ

◆主な記事◆

「原稿発掘」	2面
長崎文学館便り	3・4面
連載樹座30年⑤	5面
殺陣クラブ公演	6面
周作クラブ長崎便り	7面

第21回 周作忌に向けて

映画『沈黙—サイレンス—』に沸いたあと、 遠藤文学への関心もたかまる中で

毎年、9月29日の命日に行なわれている「周作忌」も、今年で第21回目を迎えます。没後20年だった昨年は、作家・林真理子さんを特別ゲストにお迎えし、また合唱団による黒人霊歌「ティープ・リバー」(遠藤文学最後の書下ろし作品『深い河』のタイトルルのきつかけとなった曲)もお聴きいただきましたが、今年も密かに趣向を凝らして、皆様をお待ちいたします。昨年と同じ東京・一ツ橋の如水会館で行ないますので、皆さま振るってご参加ください。

周作忌は当初、故人とごく親しい人々を中心にした「遠藤周作さんを偲ぶ会」としてはじまりましたが、会を重ねるごとに、遠藤周作を知らない参加者—遠藤文学の愛読者や「周作クラブ」会員の方々の参加が増え、会場も三田・慶應義塾大学前の「中国飯店」から、現在の「如水会館」に移って続てきました。

昨年は没後20年と、『沈黙』刊行50年がかさなり、全国的に遠藤文学への関心が高まりましたが、今年も年初にマーティン・スコセッシ監督によるハリウッド映画「沈黙—サイレンス—」が公開され、予想を上回る観客が詰めかけて、遠藤文学への注目度はさらに増した感があります。

周作クラブでも、会員各氏の映画への感想をお願いしたところ、多くの原稿が寄せられ、そのほとんどはすでに「会報」に掲載いたしました。「21世紀への宿題

の書」ともいわれる『沈黙』が、いかに多くのテーマを抱えていたかは、それらの感想からも窺えたところです。

また出版物としては、今年に入ってからすでに『人生の踏絵』(講演の初の活字化、新潮社刊)、新装版『ルーアンの丘』(留学先から送られた日記とエッセイ)などが刊行され、遠藤文学に対する関心に下降の気配は見えません。

そこで今年の「周作忌」では、いろいろな御報告も含めて、遠藤文学の現況をお伝えすると同時に、密かに皆様を驚かすプランも練っております。どうかご期待ください。

当たり前のことですが、「周作忌」へは、どなたもがご参加可能です。「遠藤文学を共有する」という当初からの会の目的を実現するためにも、ぜひお誘いあわせのうえ、皆さままでお出かけください。

(編集部/記)

周作クラブ・第17回定時総会のお知らせ

第17回定時総会を左記のように開催いたします。遠方の方には申しわけありませんが、ご出席いただければ有難く、どうぞよろしくお願いたします。出欠の御返事を9月20日までにご返信いただけます。なお、ご出席の方は、返信ハガキの「委任状」の欄への署名・捺印をお願いいたします。

日時 2017年9月29日(金) 16時30分〜17時30分

会場 「如水会館」東京一ツ橋2の1の1回03・3261・1101(代)

〈交通〉地下鉄「神保町」(半蔵門線・三田線・新宿線)いずれもA8・A9 出口より徒歩3分。地下鉄東西線「竹橋」1B出口より徒歩4分。

議題 2017年度事業報告／同会計報告／2018年度事業計画／

同予算計画／周作クラブ長崎報告／意見交換

第21回 周作忌の集い・ご案内

会場は神田一ツ橋の如水会館です。上記のとおり、今年には『沈黙』をはじめとする遠藤文学への関心が目立った年でもあり、それにかかわるご報告や、今後の動向などについてもお報せしたいと思います。

周作忌は故人と縁のあった方々だけでなく、愛読者や周作クラブ会員のための集いでもありますので、どうぞお誘い合わせてお気軽にお出かけください。

※同封のハガキで出欠のご返事をお願いします。ご同伴の方がおありであれば御氏名をお書きください。

日時 2017年9月29日(金) 18時〜20時

会場 「如水会館」東京一ツ橋2の1の1回03・3261・1101(代)

〈交通〉地下鉄「神保町」(半蔵門線・三田線・新宿線)いずれもA8・A9

出口より徒歩3分。地下鉄東西線「竹橋」1B出口より徒歩4分。

会費 8000円(当日受付でお支払いください)

主催 遠藤周作忌実行委員会 事務局/周作クラブ